

ともろうカフェ 2024年8月

男女共同参画センターのこれからを語り合う ～市民とともに～

講座記録



実施日 2024年8月30日(金) 13:30~15:30

場所 越谷市市民活動支援センター

参加 23人

※この記録は、当日のお話を再構成し、発言者の訂正・許諾をいただいて作成したものです。

□NPO 法人男女共同参画こしがやともろう代表理事 駒崎美佐子挨拶

お天気も心配されますが、今日のご参加ありがとうございます。

前もって皆様にお断りさせていただきますが、青木玲子さんが体調を崩されて、本日の出席ができなくなりました。何とかオンラインでもと考えましたが、大事をとって本日は欠席となります。

本日は男女共同参画の実現に関わってこられた方々のご参加をいただき、職員の方や市民の方など様々な立場の方々と議論のできる機会をいただき、心よりうれしく思います。

これより山口理事より進行をいたします。

私事として恐縮ですが、越谷市で男女共同参画推進を求めて青木玲子さんを中心として行政・市民が一体となって、越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」の設立や埼玉県 With You さいたま(埼玉県男女共同参画推進センター)の設立準備委員として、市民の立場で関わり、平賀さんのご指導もいただきました。それぞれが開設されてからは、市民団体として、With You さいたまではフェスティバルへの参加などを通して多くの方々とともに男女共同参画社会についての知識を得てきました。

その後、NPO 法人男女共同参画こしがやともろうの一員となり、経験豊かな理事とともに市民目線の立場で活動してきました。本日のタイトルに「市民とともに」という言葉があります。「ほっと越谷」の設立前には、設立を願って市民会議の方々と活動し、三井マリ子さんを講師に招き「北欧の風を越谷へ 男女共同参画ってなんだろう」という講演をお願いしたことが印象に残っております。

男女共同参画の風を全国に送るためにも、今回は実り多い会になりますように願って、ご挨拶とさせていただきます。

□山口洋子

皆さんこんにちは。ともろう理事の山口です。私は埼玉県の男女共同参画課にありまして、県で男女共同参画推進条例ができて、With You さいたまのオープンのときにちょうど居合わせたものです。

青木さんが本日は調子が悪くて来られないということで、この場で青木さんがどんな話をしたかったかというメッセージをお預かりしておりますので、代読いたします。

「本日のカフェで語り合いたいこと 青木玲子」(山口代読)

皆さん今日は、本日は天候の悪いところをお集りいただき、ありがとうございます。

皆様にお世話になりました「こしがやともろう」、NPO 法人としての最後の企画です。

既に、13 年間の活動記録をまとめ、その後、男女共同参画センターの指定管理を離れて、私たちが大事にしていた自主事業、「ともろうカフェ」や「ゆったりカフェ」を続けてきました。3 年経って、NPO 法人を撤退することが具体的に変わった時、丁度 NWEC の内閣府移管、男女共同参画センターの役割が注目されました。最後のシンポの企画を話し合う時、私たちが目指した「市民と行政をつなぐ」というセンターの原点を踏まえて、様々な立場の方々とセンターのこれからを語り合いたいと思いました。

本日、お集りいただいた方たちは、埼玉県の方も東京都の方もいらっしゃいますが、数年にわたり男女共同参画センターに関わっていらした方です。きっとどこかで、何かで、何重にもつながっているネットワークが見えてくるのではないのでしょうか。

先日、With You さいたまの広報紙の特集「ジェンダー主流化って何ですか?」を読んで、私は涙が出るほど



感激しました。涙の半分は今回の埼玉の政策に力を注いで亡くなった田中由美子さんの思い出で、埼玉県男女共同参画推進センター「WithYou さいたま」に繋がる今はやりの長い列を思い出します。

今日は、With You さいたま の歴代コーディネーターが揃っています。平賀さん、(青木、)瀬山さん、そして現職薄井さんとバトンタッチしてきました。長い列もありますが、長い道もありまして、埼玉の男女共同参画センターが立ち上がるなら、民間のコーディネーター職をという運動は、矢澤澄子さんなど埼玉の女性グループが、坂東真理子副知事に要望書を出した経過があります。創立当時から行政の内田さん、平賀さんが初代民間からのコーディネーターで、民間の力を発揮され、しかし今も続く男女共学化問題などにご苦労されたのでした。私は二代目でしたが、その時の職員、所長もいらしています。短い期間でしたが、よく専門員、職員と討論や話し合いがあり、私は、越谷の直営の時代も担当課の職員の方との交流、また条例の制定については、市議会の女性議員には本当に協働していただきました。

当時それが当たり前、と思っていたのですが、指定管理者制度になってその交流が途切れたような気がします。そして、あの時代こそ、「ジェンダーの主流化」に向かっていたのだと思います。その後、瀬山さん、薄井さんと続いて様々な新規事業を打ち出しているのはご承知の通りです。市民の方たちとの災害避難など柔軟な対応をして、まさしく、災害・防災・復興政策はジェンダー主流化を進める重要なターゲットとなっています。

越谷の市民グループの方たちも With You のフェスティバルやネットワークに参加、埼玉県各市のネットワークの活動もありました。行政、センター、市民の三者協働の活動も体験してきました。本日参加される皆さんの体験であり、経験知だと思います。共に力を合わせて来たのです。私たちの体験から、今日は、ぜひ未来のセンターも語りましょう。

男女平等社会にむけて男女共同参画センターが設立されて、40 年以上、日本の男女共同参画センターは、社会における女性の困難さを良くサポートしてきたと思います。相談事業、学習事業、情報事業、交流事業、多くの実践事例やノウハウを積み重ねてきました。

ジェンダーバイアスは根強く社会に残りますが、一方で強い追い風がある今だからこそ、時代に合わせて事業を進化させて、理念を伝えるという、あらたな一步を踏み出せるのではないのでしょうか。「ジェンダーの主流化」を目指し、社会の仕組みを変える好機が訪れていると思います。「ジェンダー主流化」の実現については、長い間文言だけの主張でしたが、男女共同参画センターの長年の事業実践からのアウトカム、職員の経験知を市民の皆さんとの協働で、広く国や埼玉県、各市町村の男女共同参画政策提言に積極的に活かすことを期待したいと思います。



□司会 島津美弥子

ここからはおひとり 3 分間程度でお話いただきます。まず自己紹介、今日参加された動機、どなたかから誘われたでも結構です。それから先ほどの青木理事からのメッセージについての感想をお願いします。一回りしましたら、再度ご意見や皆様のご意見に関する事など挙手していただきお話しください。

3 分たちましたら荒井理事から、そろそろですという合図をしますので、続きは一巡の後でお願いします。では、最初に山田さんからお願いします。

□山田裕子

越谷市議会議員の山田裕子と申します。今日はいただいたチラシに、男女共同参画センターの今後を話し合うという趣旨のことが書いてありましたので、今 NWEC の今後がどうなるのかも気になりますので、皆さんのお話を聞きたくて参加しました。

私は全国フェミニスト議員連盟という女性議員のネットワークの参加者の一人ですが、2024 年 8 月 27 日(火)に NWEC の理事長の萩原さんにお会いして、フェミ議連の要望書をお渡しして、懇談するということがあり、私も出席しました。

そのときに、昔の事業仕分けの時代から稼働率が悪いとずっと言われてきて予算を削られ続けていて、職員も努力したけれども、今回の宿泊棟をなくすということになり、いかんともしがたいとおっしゃっていました。なんとかならないかと思いますが、そのときおっしゃっていたのが、コロナ禍でオンラインにしたら全国津々浦々の 100 人 1000 人とつながることができたので、それに注目していきたいということでした。

それもそうで、たしかに一度に 100 人 1000 人とつながることは素晴らしいと思うのですが、私も NWEC に泊まってセミナーを受けたりすると、いろんな方と知り合いになれて、そこから新しいグループを作ろうかという話になったり、女性議員を出そうかという話になったりもしたので、直接会って、つながって、仲間をつくるということがないと、ジェンダー平等が地域で進んでいかないんだなと実感しています。どうにかそういう場を守っていくことができないのかなと感じています。

皆さんに比べたら経験も浅いので、いろいろな以前のお話など、皆様のお話を聞かせていただければありがたいと思っています。よろしくお願いします。

□中野洋恵

皆様こんにちは。中野洋恵と申します。国立女性教育会館 NWEC からまいりました。きしくもお隣に座らせていただき、これも何かのご縁かなと思います。

今のお話のように NWEC はオンラインの研修が多くを占めるようになりました。ではそれで繋がれるかというとなかなか難しい。オンラインのセミナーに 50 人の参加者がいたとしても、その方々とどれくらい繋がれるのだろうか、意見交換ができるのだろうかと考え、とても難しいと思うのです。NWEC に泊まって、研修の中身も悪くないんですが、夜みんなが集まって、いろいろ話して、今何が問題なのかとか、今こんなことがあるんだとか、夜の時間にすごく話すことができ、それが財産だったのではないのでしょうか。コロナ以降、オンラインになることで、実はそのネットワークがどんどん薄くなっていることが心配です。

私は NWEC では統計に関わっていたことから、こしがやともろうとも統計のデータを作成したり、実験プログラムなども一緒にやらせていただいたことをよく覚えています。今日この会では With You さいたまの関係者の方々がいらしゃるとお聞きしていたのですが、実際には、この方も知っている、どこかでお会いした方がたくさん

いらして嬉しいです。

男女センターのこれからは、青木玲子さんのメッセージにもありましたが、ジェンダー主流化のために何をやるかが、とても大事だと思います。これからどうしたらいいのか、どうしたらつながりをつくれるのか。又エックに何ができるのだろうか。それを考えたくて今日は来ました。どうぞよろしくお願いいたします。

□浅野富美枝

多くの方が初めてここで出会います。浅野富美枝と申します。2000年4月に仙台の宮城学院女子大学に行きまして、仙台に行ったのは高校の修学旅行以来だったので、誰も知っている人がいない、大学教員の仲間も知らない人ばかりでした。そこで私はとても孤独だったのですが、仙台に移って1か月ぐらいして、エル・パーク仙台に行きました。現在は、男女センターとして仙台市では2館体制になっていて、エル・パーク仙台とエル・ソーラ仙台があるのですが、そのときは市民活動の拠点としてエル・パーク仙台がありました。

そこに行けば、どなたか仲間が見つかるに違いないと思って、行ったんです。そこに行ったのは大正解で、宗方恵美子さんとかいろいろな人に出会って繋がることができました。私は何か勉強したいとか目的があってそこに行ったわけではなくて、人と繋がりたいと思って、そこで雑談するなかで仲間をみつけて、私の居場所をみつけれることがわかってきました。大学の中でも努力はしたのですが、市民と繋がるということは目的を持って参加するだけでは、なかなか友達はできない。男女センターのような拠点の中で、人と人がリアルに繋がる場があったからではなかったかと思います。

私は男女センターだけではなく、書店がとても少なくなっていることも気になります。この本をみつけないでいくだけでなく、ふらっと入ってとても良い出会いがあった本があります。そういう直接人とか物とつながる場がなくなっていくことが、人間の繋がりの貧困を生むのではないか。逆に言えば、男女センターは人と人との深いつながりを導き出してくれるとても重要な場ではないかと思っています。一つ一つの自治体で、例えばWith You さいたまなどの場も重要だと思いますが、全国と繋がるNWECという場はとても大事な所だと思います。私はNWECのこれからということを知りたくてここに来ました。どうぞよろしくお願いいたします。

□辻川公恵

皆さんこんにちは、辻川と申します。私はほっと越谷に10年前に団体登録しました。その関係でともろうさんを知り、人権に関心があり今日は参加しました。

人と人との繋がりがどんどん薄くなっていく社会では、いろいろな問題が出てくるという危機を感じます。よりよい未来を期待しながら、今日は皆さんとお話ができ感謝します。よろしくお願いいたします。

□山田ちかこ

山田ちかこです。隣にいる辻川さんが主宰する団体の交流会に参加して会員になり、男女共同参画支援センター ほっと越谷で、コロナになる前までは直接触れ合う交流会がありました。コロナで交流会ができなくなり、当事者が直接話し合う大切さ、講座では自分の目的が達成されればよいというものではなく、そこで分かち合い紹介し合う場が必要だと感じました。

男女センターの成果が参加者の数ということではなくて、必要な場所であるということで、ほっと越谷をそういう場にしたいと、運営管理者がともろうから変わったことで感じるどころがあり、議員の山田さんにも相談したりして話を進めています。今日はどうしたらいいかと思って参加しました。

□佃陽子

佃陽子と申します。ほっと越谷が開設間もないころから、催しものがある時に、私は自宅玄関前の小さな庭からハーブを採って持っていきます。講座終了後、何もない部屋でハーブの香りがしているのは至福の時だったと青木さんに言われたことを、今思い出しています。

NWEC のことですが、昔電話相談に参加していました。現役の時口に出してはいけませんが、初期研修の2泊3日の研修が必修で、泣きながら NWEC で研修を受けていました。折々の研修も NWEC でした。でするので、これからどうなるのかなと思っております。

□平賀圭子

平賀と申します。今は東京都練馬区に住んでいます。放浪癖があるわけではありませんが、あちこち行って、この前はもりおか女性センターの指定管理者になっている NPO の理事長をしていて、そのあとセンター長をしてということもありました。

この道のスタートは、グループを作って神田道子さんを座長にしたことからです。練馬区の社会教育主事の方から東京都の研修があるから行って見ないかという誘いを受けて、国連で採択された条約の勉強会に参加しましたが、そこで教えていただいたのが神田道子さんでした。その時の人たちでグループを作り、その年が1981年だったので、81会としました。各地から来ている方々でグループをつくって、それがいまだに続いています。最近はその仲間が次々に亡くなっていくので、それだけ年を取っているということなのですが。

この長い間男女共同参画のことをやってきて、何が変わったんだろうと思うことがありますが、本当にミリ単位です。1ミリか2ミリ動いたのかなと思うのは、先日ニュースで、埼玉県苦情処理委員が共学化の問題を取り上げていたことです。私が、山口さんが男女共同参画課にいたときに苦情処理機関の専門員になったときに、共学化に関する論文を書いたのですが、埼玉県にモーレツに評判が悪かったんです。自分ではずいぶん勉強して書いたのですが、評判が悪かった。そんなことをいろいろ思い出して、今度出たときは、教育委員会が進めるという返答期限を出したということで、ああ、あの時から5ミリぐらいは動いたかなと思いました。

あれから何年たったのでしょうかね。だいたいこの程度のスピードで、今の台風みたいで、一つ所でぐるぐる回って動かない。あれくらい大きかったらいいですが、小さな勢力でぐるぐる回っているという感じだったから、盛岡で15年ぐらいやったのでしょうか。そして、80歳になったので自分の体力もダメなのでやめさせてくれと言ったら、ダメだと。私は通してくれなければ老人虐待で訴えるぞとか言って、やめさせてもらって東京に戻ってきたところなんです。今日はなつかしい方にいっぱいお会いできて、いっしょに飲みたいなんて思って参加しました。よろしく願います。

□加藤直子

私は行政職員でした。職員は辞令一本なので、何も知ることなくこの世界に入って、8年ぐらい関わりました。平賀さんが言うように、本当にミリ単位なんです。三歩歩いて二歩下がるということもできないぐらい、行きつ戻りつで、退職するまでに一番長くかかりました。

自分自身何もできなかったという気持ちはあるのですが、私が NWEC に出会ったのは、昔 JYVA(日本青年奉仕協会)という団体がありまして、全国ボランティア研究集会というのがあって、それを埼玉県で開催することになり、私がおその担当になりました。全国から900人ぐらいが参加する集会で、そこで初めて NWEC に宿泊し

ました。その時、すごいところがあるんだなと思って、そこからずっとお付き合いをさせていただいていました。

その後、男女共同参画課に勤務することになったとき、本当に何一つわからなかったんです。先ほどもお話のあった苦情処理のことなども何も知らなかったのですが、そのとき山口先輩がいて、苦情処理関係などいろいろと教えていただき知っていく、それが私の原点でした。ただ、この問題をあまり意識することなく入れたというのは、自分なりに固定観念を持つことなく取り組むことができたのかなと思います。

それから、民間と行政が連携しないと何も起こらないというのは、市民活動の原点だと思います。NWEC はそれをやり続けたし、全国の男女共同参画センターもそれをやり続けた。

私が自分の中でこの仕事をして一番大切だなと思ったのは、DV の問題です。DV 防止法ができて、計画を作る担当となって初めて、こんなに根深いものだというのを、恥ずかしながら、ある程度の年齢になって学んだんですが、それが私にとって一番で、女性の問題をちゃんとしていかなければならない、そしてそれが公になっていかなければいけないと思いました。

そんな私がここまでこられたのは、平賀さん、青木さん、瀬山さん、内田さん、山口さんという先輩がいて、民間の方が助けてくれたからです。女性政策が進むには、行政だけではできません。行政職員は3年なり4年なりで異動してしまうので、どうしても継続しない、それをコーディネートしたり人的ネットワークづくりをしてくださる、そこで関わった方々が育ててくれているんだなとつくづく思いました。

□内田洋子

内田洋子と申します。今日はよろしくお願ひします。山口さんからお声掛けいただいて、この会のあることを知りました。毎日暑いので一緒に住んでいる息子から外に出るなどと言われていたのですが、家において毎日テレビでテニスばかり見ているとボケるなと思って、今日は良い機会だと思って参加させていただきました。

私は加藤さんの後輩で、埼玉県の職員でした。在職中は全部で 13 か所の異動がありましたが、その中で With You さいたまという名前がまだ決まらないとき、開設準備室のときに異動してきて、初めてこういう世界があるのだということを知りました。それから、開設準備室からさいたま新都心にある With You さいたまの開設にかかわり、3年間事業担当としての仕事をさせていただきました。なにより NWEC に1か月研修に行かせていただき、お世話になりましたが、あの時にもっとすごいなと思ったんです。国の職員の仕事ぶりが違うんだなと、自分がいかにぬるい仕事をしてきたかということに気が付いたりしました。

平賀さんには本当に一から教えていただき、開設準備室にいるときに県に入られていっしょに仕事をさせていただきました。正直私にとっては難しすぎて、どうしようかと思っていましたところ、いろいろ教えていただきました。その後他部署に異動させられ、定年間際にまた With You さいたま所長ということで3年仕事をしたときに、瀬山さんと一緒でした。点々としましたが、いまだに自分にとって宝だなと思っています。

定年のときに平賀さんから熱烈オファーをいただいて、盛岡のもりおか女性センターに単身赴任して、息子を置いて4年間、本当に中身の濃い時間を過ごしました。盛岡は本当に良いところですので、皆さんいらしてください。青木さんの言葉でいろいろ思い出して、越谷の方には本当にお世話になったと思っています。今日はよろしくお願ひします。

□栗田和美

弁護士の栗田と申します。山口さんからお電話と手紙をいただいたので来ました。事件を通じてならお話ができます。

私は弁護士ですから、DV 被害者の弁護もしますし、DV 夫の弁護もします、弁護士なので。彼らの発想は奥さんに暴力をふるったということは客観的にはわかるけれども、撫でたぐらいだと。あのへんの発想はわかりません。表ざたになれば必ずつかまりますから、被害者の方はどんどん言っていったほうがいいです。

先ほど、1ミリしか進んでいないと言われましたが、私は 1976 年に研修所に入って、その時に教官が男女差別の発言をしたのでクラスで問題になって、その教官たちは国会に弁明書を出しました。その後、その方たちは出世したのかどうかわかりませんが。

私は山口さんが県の担当の時に苦情処理委員でしたが、別学を取り上げたその時のことを、今もやっているのに驚きます。私は弁護士ですから、個人の尊厳は絶対で個人を尊重することからすべて発生します。デートDV であれ何であれダメです。まだら模様というのが現実かなと思います。神は平等に知恵をつくれた。男であれ女であれ能力は同じということですが、事件でいろいろな状況を聞きますが、奥さんがよくて旦那がダメなことがあります。神は本当に平等につくれたのかと。性差による能力は関係ないと私は思っています。

最後に、私が読んで感動したのは、山川菊栄の『おんな二代の記』で、すごく面白い。本の最初のころに、青山千世(ちせ)という菊栄のおかあさんが儒学者の娘で、お茶の水の第一期生だったことや、関東大震災のときのこともあります。NHK でやっている「虎に翼」で取り上げた人を私も知っているのですが、見る気がしない。それなら、山川さんをどうして取り上げないのか不思議です。PTSD のことも書かれているので、ぜひ読んでください。おかあさんのことを書いた『武家の女性』も江戸時代後期の庶民の暮らし、寺子屋のことも書かれていて、岩波文庫にありますのでぜひ読んでください。

□土屋栄

皆さんこんにちは。土屋栄と申します。春日部から来ました。私の同居人が岩手の者で、本日は来られないので、よろしくお伝えくださいとのことでした。ともろうの 13 年の歩みの冊子を読ませていただき、この団体での最後の講座ということで、折しも春日部の男女共同参画センターで島津のもとで仕事をしていますので、それも相まって今日は参加させていただきました。

私は男女共同参画についてはほとんど知りませんでした。妻が男女共同参画の仕事をしており、川越の母子センターや With You さいたまに勤務しておりました。妻に見に来てくれないかと言われ、センター企画の参加もして、少しずつ男女共同参画について知るようになりました。私の家族は男女共同参画で問題になるようなことは全くないし、現在お互いにできることは自分たちでするので、私もご飯を作ったりしていましたので、まったく問題がないです。

今勤めているハーモニー春日部では、毎日いろいろな方から思った以上に電話などで相談がきます。市の人権課の方が、あまりにも男女共同参画のことを知らないということがあり、越谷を見習ってもっと推進してほしいと思います。これからがんばっていきますので、皆さんよろしく願います。以上です。

□小池尋江

小池尋江と申します。本日はよろしく願います。私はこしがやともろうがほんと越谷の指定管理をしていた最後の 4 年間に勤務していました。私自身は 14 年ほど各自治体の男女センターに勤めてきました。実は、さきほど浅野さんがおっしゃっていた「エル・ソーラ」が入居する商業ビルの中に本社があるカード会社に勤めていました。2010 年に結婚して東京に来ましたが、正社員として 18 年の勤務経験があったにもかかわらず、転職活動でなかなか面接まで至らず、論文付のところに応募すればもう少し履歴書を見てもらえるのではないかと思います。

い、応募したのが葛飾区の男女平等推進センターでした。それまでこのようなセンターの存在を知らず、試しに仙台市のセンター所在地を調べたところ、以前の勤務先の上の階にあることがわかり大変驚きました。

私はその時まで、男女共同参画、男女平等についての知識も考えたこともなく、センターで働き始めたことをきっかけに、私自身が生きていくなかで感じていた理不尽やモヤモヤというのが、実は社会の課題だったのだと思ひ至りました。もし、私が人間として成長したことがあったなら、その分、世の中の男女共同参画が進んでいるということではないかと思っています。センターに勤務してすぐに気づいたのは、自治体職員は3年ごとに異動を繰り返すということ。つまり、計画を作る人とそれを実行する人が分かれていて、定点観測して地域で進めていくのはプロパーの方にはできないということです。それを進めるのが非正規の職員しかできないのであるなら、それはやりがいのあることと思ひしていました。実はその構造すら社会課題だったということには、その時には気づいていませんでした。

青木さんの先ほどのメッセージのなかで、市民とセンターを繋ぐということがありましたが、ほっと越谷のセンター職員として私が一番やりがいを持って、ここだけはしっかりやれたという成功体験は、「センター職員としての市民と繋がる役割」だったと思ひます。これからも男女センター職員として地域の男女共同参画を進める力になりたいと思ひしていますが、その根底には、ほっと越谷での市民・市民団体との活動があったということ、今日はずいと言いたと思ひました。

□作部径子

作部径子と申します。こしがやともろうが指定管理者だった最後の5年間と、その後街活性室に指定管理が変わってからの1年間をほっと越谷で勤務していました。市民が作ったNPOが男女共同参画センターの指定管理者になるということは、なかなかリスクがあることだと思ひますが、それをこしがやともろうがなしとげたことは評価されるべきだと思ひ、そのことを、最後のともろうカフェで青木さんからお話を伺いたと思ひました。

青木さんのメッセージを聞いて思ったのですが、市民との繋がりということでは「ほっと越谷」は市民ととても近いところの男女共同参画センターでした。自分が関わったいくつかのセンターをみても、ここまでがっちり市民といろいろやっているところはなかったと思ひます。今のほっと越谷がどうなっているのかと思うと少し残念な気持ちになります。

NWECのことでは、RENという団体でNWECのフォーラムに出ていたのですが、今年のフォーラムに団体参加枠がなくなったということをお聞きしました。NWECは夏の暑い中での開催など大変なこともありましたが、楽しい時間でした。それがなくなるということは、大きな変わり目なのかなと思ひます。

□渡辺百合子

渡辺百合子と言います。私は今、瀬山さんと一緒に「はむねっと」という団体をしています。以前に仲間がともろうカフェでお話をするということで初めて参加したことがきっかけで、今日は参加しました。

私自身は、男女共同参画の関わりはなくて過ごしていたのですが、自分の関わる団体で男女共同参画センターをお借りし、そのときにセンター職員にお世話になったという覚えがあります。今は、公務で非正規でという方々との関わりがなかで、男女センター職員は非正規の方が多いので、今年もアンケートを取っていますが、その中に「経済的なジェンダ－格差の問題を講座などで頻繁に扱うことがあり、女性が低賃金で働いているのは矛盾を感じてむなしい」と40代の女性が書いています。こういうことがちっとも変わらない、そういうところはあるなと思ひています。総務省から通知が出るなど、1ミリか2ミリかもしれないけれども、ちょっとは前向きになっ

ているかなということで希望をもってもう少し頑張らなければと思っています。

最後のともろうカフェだということは知らずにきてしまいましたが、私自身も NPO で最後をたたむ経験がありますので、理事の皆様も、寂しいようなつらいようなほっとするような思いがあるのではないかと思います。ありがとうございます。

□瀬山紀子

皆さん、こんにちは、瀬山紀子と申します。私は今、東京の台東区に住んでいます。台東区には、「はばたき 21」というセンターがありまして、私は、初代のコーディネーターという形でそのセンターにかかわりました。そのセンターは、開設から 23 年ほど経つのですが、建物の耐震化工事で、来年から 1 年半ほど閉じてしまうということで、今朝は、地元の薬局の薬剤師の方と、センターが閉まる間はどこで会おうかという相談をしていました。

青木さんと最初に会ったのは、その台東区の「はばたき 21」のコーディネーター時代に、青木さんがセンターに何度か来てくださったというのが出会いのように思います。2000年代初めぐらいのことです。青木さんはそのときに、台東区にも何らかの委員などの関わりがあったのだと思います。私が行政の中の一人の非常勤コーディネーターという立場でいて、仕事上の悩みを話せる人がおらず、悩んでいたとき、青木さんがセンターに来てくれて、元気づけをしてくれたのを思い出します。

ある時は、「あなたに」と言って、ラベンダーの大きな鉢植えを抱えて来てくださり、驚いたこともありました。青木さんが東京ウイメンズプラザにいらしていた頃かと思います。

その後、港区の男女平等推進センターに勤務するなど変遷しながら、ご縁をいただき、青木さんの次のコーディネーターとして、「With You さいたま」に 11 年ほど働きました。青木さんからは、仕事を引き継ぐときにも、いろいろなことを教えていただきました。私が With You さいたままで働き始めたのは、2009 年で、2011 年の東日本大震災のときに、薄井さんはじめ、With You さいたまを利用していたコアの人たちとともに、センターに何ができるのかということを考えて、今に続く「さいがいつながりカフェ」を始めたことを思い返します。

この先も男女共同参画センターが、対面で、人と人を繋いでいく場所になったらいいと思っています。今朝会っていた方もそうですが、対面だったからこそその縁、そして、そこからいろいろな人が繋がっていくということを感じているので、行政職員も含めて、これまで自分が重ねてきた縁を繋いでいくようなことを、この先も、自分としてもやっていければいいなと思っています。できれば、NWEC も、この先、対面で人が集うことができ、全国の人を繋ぐ場であってほしいと願っています。オンラインでの繋がりは大事だと思っていますが、オンラインだけではない場が必要だと感じています。

今日は、みなさんと語り合えるのを楽しみにしています。

□薄井篤子

私は薄井と申しまして、With You さいたまに近いところに住んでいた関係で、ボランティアで関わっていました。そのときは青木さんがコーディネーターで、その後瀬山さんに替わって、ボランティアとして関わりながら、先ほど瀬山さんがお話しされたように、さいがいつながりカフェにも関わりながら、今は瀬山さんの後のコーディネーターとして勤務しています。

私がちょうど勤務したときにコロナだったので、今まで自分がボランティアで With You さいたまを活用していたようなことができなくなり、対面も講座もなしで、すっかり何もできなくなってしまい、オンラインに移行する大きな変わり目に入ってしまった。もちろん広がりもありましたが、皆さんがおっしゃっている対面のよさもあり、

どうしたらいいのか大変悩みました。With You さいたまが 20 周年を迎えた節目のときに出会えてありがたいと思ひながら、今までを振り返りながら、これからどうしたらいいのかと模索中です。

新しい時代のなかで With You さいたまが何ができるかというなかで NWEC の問題が上がってきて、NWEC が全国のセンターオブセンターとして何をやるべきかという問題は、そのまま埼玉県の中で With You さいたまが何をやるかということに当てはまると考えています。全国から NWEC があってこそ、NWEC がみんなの集まる場所だとみんなが思っているという声を聞くと、埼玉県の皆さんからは With You さいたまがあるからこそとか、With You さいたまにみんなが集まろうとか思っていたらかなければいけないと、今痛感しています。

男女共同参画の問題も地域差を考えながら進めることが大事だと思いますが、埼玉県も北から南、西東では違うので、そういったこともきちんと目を向けながら、基本は市や町の方々の活動がベースだと思いますが、地域の課題を地域の方々と手を合わせて何かやれることがないかな、ということを経験出身の私はいつも思っています。民間からきたからこそ、そういう思いを県の職員に伝えて事業化していきたいと思っています。

この間まで能登に行ってきました。避難所や仮設を見てきましたが、痛感するのは、それぞれの自治体の首長やリーダーの考え方一つということです。全体的に、東日本のときに頑張ったことが生かされていない印象がして、がっかりしていましたが、中には大変勉強されているリーダーの方は、いち早くいろいろなものを取り込んで女性たちの目線もちゃんと届いていました。改めて、自治体のリーダーの方々にもジェンダーの重要性を伝えていかなければと、県のセンターの者として思っています。これは市民の皆さんの力なしにはできないことですので、これをもっと強調していきたいと思っています。

□司会 島津

皆さんありがとうございました。短い時間でしたが、青木さんのメッセージへの感想などもいただきました。これからお茶とお菓子を配りますのでしばらくお待ちください。

□山口

青木さんからのメッセージにあります、ジェンダー主流化に向けたことが掲載されている With You さいたまの情報誌をお配りします。

□司会 島津

続けて 2 部に入ります。

ここからは、これからの男女共同参画センターや男女共同参画のことなどで何ができるのか、また、NWEC に望むことや With You さいたまに望むこと、あるいは男女共同参画センターに望むことなどを、皆さんとお話したいと思います。ここからは挙手していただき、自由に発言をお願いします。

□栗田

そういう考えの政治家をたくさん増やして国が制度を作ってくれと、私たちは非常に便利です。空気が変わります。さきほど 1 ミリとかおっしゃっていましたが、私が弁護士になったころに比べるとずいぶん変わりました。セクハラ訴訟でも、今では加害者が地位を失うようになりました。議員を増やして、そのためには市民が頑張らないといけません、政治家を育てて行政を変えることが大事だと思います。

□土屋

私は教育が一番だと思います。今の世の中をみると、経済力のある人とそうでない人で各段の差がついていますが、神は同じ能力を与えてくれたと思っています。一つ提案ですが、子どもたちが寄宿舎生活をして、男女とも同じ教育を受け、同じ労働、同じボランティアをし、それから上級学校・大学などに行く、というような教育システムにするのが一番だと思います。

□小野

NWEC について聞きたいというご意見があったかと思いますが、どなたかその点についてご発言いただけますか？

□中野

私は今、NWEC を退職して客員研究員として関わっていますので、NWEC がどうなっているかわからないことがたくさんあります。ただ、内閣府に移管するためには国会にかける必要があるので時間はかかると思います。NWEC では今後どのような事業を展開していくのかを検討しているところなのではないかと思います。いろいろご意見を伺うことができればありがたく思います。

□加藤

先ほど薄井さんがおっしゃったように、私が With You さいたまにいたときに思ったのですが、県にも各地にセンターがありますが、その元は NWEC です。なんらかの形で NWEC の研修を受けています。行政職員もわからなければ、まずそこで学ぶ。今更学んでということもあるのですが、男女共同参画に関わる行政職員は全体の中の零点何パーセントぐらいです。ほとんどの行政職員は、そのことを知らずにみんな終わっていくので、せっかくそこに関わったのであれば、男女平等のこと、女性問題だけでなく、社会の中でどうあるべきか、ジェンダー論も含めて考え、どうすればいいのかを学ぶ。その場所が埼玉県なら With You さいたまです。越谷市なら越谷のセンターですし、それらを積み上げていく最後の場所が NWEC だと思います。

NWEC が埼玉県にあることを、私は幸せだと思います。女性会館協議会が NWEC で全国大会を実施したときに青木さんもいらして、全国からセンター長などが集まって、そういう場があることが重要だと思いました。せめて数パーセントでもいいですから、この職についての職員や民間の人々が何を学ぼうか、何をしようかということ発信していくということは、大事なことだと思います。そして、フェイス to フェイスが一番大事だと思います。

□平賀

私も NWEC ができたときからずっと関わっています。わからないことについて、知るとか学ぶとかは、すべての基本だと思います。全国に男女共同参画を担当する部署があります。その部署に配置されたときに、国の機関として全国のそういう人を集めて基本的な研修をきちんとする。それが一番大事だと思います。ちゃんとやって、初めて次の問題が見えてくるといえることがあると思います。

そういうことをきちんと学ぶ場の問題ですが、私が最初に NWEC に行ったときは、たしか文科省が管轄のときで、職員がまるで学生の研修のように、モーレツ厳しいんです。ここの部屋は3人なのになぜスリッパが5つあるのかとか、そういうことまでいちいちチェックして、ほんとに学校の先生みたいだったんです。集まって話し合

いをしてスリッパが4つも5つにもなるわけで、ここは3人部屋だから4つも5つもはおかしいというのをものすごく言われたのが、記憶に残っています。

内閣府に移管になっても、教育ということは一番で、職員の教育をきちんとやってほしいというのが希望です。さきほどもフェイス to フェイスというお話がありましたが、機械で勉強してもだめですね。NWEC は宿泊をやめたいいけないのではないかと考えています。夜中や朝まで議論して議論して、そこで全国の人と繋がって行って、今日ここに参加している方々もそういう中で出会った人が多いので、何等かのかたちで宿泊研修を続けてほしいと思います。なるべく長期間にわたってみっちりやってほしいと思います。

□浅野

人を育てる、エンパワメントする機能の重要性、それをどうしたら実効性のあるものにして人づくりになるのかということは、宿泊機能をなくしてはいけないと思います。先ほども話しましたが、目的意識をもった集まりにプラスアルファが必要だということで、そのために宿泊が必要です。雑談をする中で得られるものもあるわけで、そういう意味では宿泊機能ということ、そしてオンラインだけでなく、対面での研修が大事だと思います。昨年私は防災についてのコーディネーターを引き受けて話をしました。国には防災省というのはないので、復興庁も時限的なものだったので、災害が頻発していて、常態化している中で、国として恒常的組織が必要だと思います。そのときにワールドカフェのような形で、全国から集まりましたが、防災は自治体まかせなので、そこでやっていることは本当に格差があるんです。能登はさいたまのものだと思いますが、とても進んでいるところもあれば遅れているところもある。

あのときは、自治体の職員だけでなく市民団体もいたし病院の災害対策もあるのでそういうところの先生も来ていました。自治体によってやるのが全然違う。目指していることは同じですが、この自治体ではこんなことをしています、今こんなことが課題ですということをいろいろ話し合う、それによって、同じことはできないけれど、こんなことをやってみようなど、交流ですね。講師が話す内容とはまた違った何かを話し合うということが、とても重要です。受講生の感想にもそれがとても役に立ったということでした。平場での参加者同士の交流が役立ったということがありました。そういう機能がはたせるような NWEC であり続けてほしいと思います。

□小野

薄井さん、ジェンダー主流化についての With You さいたまの取り組みについて、お話いただくことはできますか。

□薄井

私は、県の事業コーディネーターという立場でここにいるわけではないので、今日は個人的な思いも含めて話すことになるかと思います。ジェンダー主流化ということは、知事が定例会見でも話していますが、言葉は以前からあり、世界はそれを目指していると思います。今始まったものではないということは知事も言われて、それは確かなのですが、日本では男女共同参画という言葉が広がって、ジェンダー主流化は忘れられていたところがありました。その中で、埼玉県は県としてジェンダー主流化を進めるという方針を立てました。

今までに、越谷の市民の方々をはじめとして、多くの方々が要望して下さったことが結実したということも言えると思いますが、直接的には知事がジェンダー主流化をしようと発案され県内部には戸惑いが広がりました。それで、専門家を呼んで職員の勉強会をしようということで、JICA の方をお願いしました。JICA は国際協力

の分野でジェンダー主流化に取り組んでおられ、日本はジェンダー的には後進国なので、指導していただくということで始まりました。知事は前々から考えていたことだったようで、全庁でやりますということを繰り返されているので、自分たちの事業や政策を見直すという作業を今やっているところです。

今はプロセスなのでなんとも言えませんが、全庁的にジェンダー主流化を考えているという状況にあり、それは非常に素晴らしいことだと思います。ジェンダー主流化について With You さいたま広報紙に書かせていただきました。昨年は事業点検として5つ挙げて実施しました。ジェンダー視点からの災害対策が必要ということで、災害対策課ではマニュアルを作ります。それから女性の創業支援について JICA と案を練っているところです。それから農業女性の農業従事者がなかなか増えないのはどうしてなのかということで、アンケートをとったり調べて、研修やメンターが必要との提案が挙がってきたので、それも事業化しようと動いています。それから都市公園の整備です。県立公園はいろいろな役割をもっていますが、一番問題なのはトイレの安全問題です。暗くて危険を感じたりするという声が女性から挙がったので、この点を見直すということ今年度から始めることになっています。知事から一番やってほしいと言われたのは、県庁内の職員の働き方のワークライフバランスを進めるということで、育児休業の取り方や女性職員が働き続けるためにはどうすればいいのかを検討するなど、取り組みました。まだ、はっきり成果が見えているわけではなく、わかりやすい公園の事例などを広報紙に挙げていますが、たとえば公園もみんなに使いやすいものにしたいと職員は考えていますが、男性・女性、母親・父親では求めるものが違うとか、気になるところが違うということは、あまり考えていなかったことで、言われればそうかなと思うけれども、実際にアンケートをとったりして見える化していないので、まずは数値でデータをとりましょうと。それで相違点が見えた訳です。その一つ一つのプロセスがジェンダー主流化ということであり、学んでいる途中かなと思っています。

このことで、特に力を尽くしていただいたのが、JICA の田中由美子さんです。青木さんと私もいっしょにやっている防災の活動で田中さんとつながっていたので、ぜひジェンダー主流化のサポート役を田中さんにやっていただきたいと思い、お願いしました。終わってすぐに亡くなられました。このことで大変無理をさせてしまったと思っています。お願いしたことに責任を感じておりますが、5つの事業点検の中での田中さんのアドバイスは大変インパクトがあって、世界で実践された事柄に職員の皆さんが触れるだけで影響があったと思うので、田中さんはもうおられませんけれども、引継いでいきたいと思っています。

本当にどうやったらいいのかは、暗中模索です。私は市民の方々から声が挙がってきて、家の近くではこんなことがあったとか、これはちょっとおかしいんじゃないのとか、そういう声が挙がることで、気づきを与えてくれることが増えると、県庁内でも理解が進むかなと思います。県では、知事は、企業向けに広げ、埼玉県内の企業にジェンダー主流化やジェンダー・イノベーションへの理解を深めてもらうために 10 月に企業トップ向けのセミナーを開催します。知事からの説明のあと、NWEC の萩原理事長から「ジェンダー主流化に向けた課題—ジェンダー平等と多様性/ダイバーシティの推進に向けて」という講演を行っていただきます。SDGs もジェンダー主流化でもありますが、まだその点も浸透していないので、そのことをトップセミナーでお二人が発言されると思います。企業に広がると、少しは女性の働き方や女性活躍にも効果があるのではないかと思います。県としては、それを機に NWEC とも連携を深めていきたいと思っています。県の取組についてお話をさせていただきました。以上ご報告です。

□司会 島津

県として、市町村への働きかけはどのように行われますか？

□薄井

これから市町村職員向けのセミナーを開催し、ジェンダー統計の研修や好事例を紹介し、それぞれでの実施を検討してもらおうよう働きかけます。市町村の規模は取り組みやすい面があると考えられます。例えば、豊岡市では市のレベルでジェンダー主流化が行われています。県が主導し、市町村や企業へ広げていくことによって、女性も男性も暮らしやすい埼玉県を目指すというのが知事の意図です。

□司会 島津

瀬山さん、埼玉県のことについて感想などありますか。

□瀬山

私は、現在、埼玉大学に勤めているので、そこにも影響があると思います。埼玉の底上げにつながっていくといいなと思います。大学はジェンダー主流化というより、ダイバーシティという幅の広い枠組みではあるのですが、埼玉の課題はたくさんあるので、With You さいたまとも、市町村のセンターとも、地域課題を共有する立場でつながりができるとよいと思っています。

埼玉県は、市町村数も多く、男女センターが県内に 20 か所以上あります。ただ、そうしたセンターは、個別にみると、基盤が弱く、センター同士の連携が、実際にはなかなか難しいのが実情です。その中で、越谷はがんばっているセンターだったので、みなさんが指定管理者を退くことは残念でした。

若い方も含めて、男女共同参画センターを運営してみたいと思う人や、市民グループは、いないことはないと思います。そうした関心のある若い人が、担い手になっていくような道筋を、もっと作っていく必要があると思っています。

男女共同参画の活動の担い手や、センターを運営して来たグループが高齢化しているとも言われていますが、根っこにあるテーマは変わっておらず、形を変えて、今も、関心をもっている若い方たちがたくさんいるとも思っています。今の大学生や、大学で学んだ人たちにとって、必要とされる場所、地域の男女センターが、もっと人々の居場所、活動場所として機能したらいいなということはとても大きな課題として感じています。

埼玉県は、NWEC もあり、With You さいたまもあり、他にもセンターがある。この先、埼玉大学との連携も含めて、もっと一緒にやれることがあるのではないかと考えているところです。

□司会 島津

瀬山さん、ありがとうございます。埼玉県センターや大学のことをお話いただきましたが、お話にも出てきた市民団体のことについて、センターに登録されている団体の方にもお話いただければと思います。

□山田

今のほっと越谷で活動していると、直接話し合うということ、以前は職員だった作部さんや小池さんと事業以外の場で直接話す関係があったのですが、今はそこまでの信頼関係が、私たちの問題もあるかと思いますが、築けていないということがあります。変わってしまって、利益を出すことが目標だということが透けてみえようと、要望が言いにくいということがあります。人権ということが、結局お金にならない、数字に表れない部分を大切にしたいというのが、難しいですが、あきらめてはいけません。同じ思いの人をみつけて話をしていくというこ

と、議員を増やしたり、市町村の長に団体として訴えていくこと、そこに登録する団体全体の意思だということ、訴えていくこと、先ほど、NWEC の宿泊施設がなくなってしまうということ、NWEC は行ったことがないのですが、そこに宿泊施設があるということで、講座が終わったあとの話のほうに絶対深まるし、例えば母親大会も宿泊付きでそこで宿泊してつながるとい、ただ目的を達したらいい、オンラインでつながればいいということではないと思います。越谷市は市民として市民同士が繋がれることがある。センターの登録団体で最初に登録した方々は年齢が上がって活動が難しくなっている状況はあると思いますが、若い方で起業や NPO の活動に関心のある方はいると思います。今、X(旧ツイッター)で若い人たちの起業への関心を見ているので、越谷にもいるが見つけられないだけなのではないかとも思っています。その人たちがほっと越谷に来てくれれば、また繋がれると思います。まだまだ、自分ができることがあると思いました。

□辻川

山田さんの補足になりますが、団体を登録して毎月1回交流会をもっていました。「LGBT 越谷十人十彩」という当事者団体で、コロナになる前まで毎月1回交流会を持っていました。人と人が顔を合わせて話すということ、交流会をやっていて当事者の中で悩んでいる人がいて、交流会を重ねていくと変わっていくんです。

悩みながら来ている方が、本来の自分自身になっていく。もちろん全員ではないですが、確かに変わる人が何人かいる。そういう人を見ていて、顔と顔を合わせていくことは大切なことだと思います。機械ではなく、直接言葉を交わすことがいかに大事かがわかります。本当にコミュニケーションが希薄な時代になってしまったと思います。でも自分のできる範囲で、自分が大切だと思うことをやっていきたいと思っています。

□駒崎

今振りかえってみると、NWEC ができたときに、地域婦人会では全国地婦連で寄付をした植木の説明を受けながら施設の見学をしました。NWEC に行くたびに思いを深くします。一生懸命活動した人たちがみな高齢になってしまいました。以前に私たちの団体地域ネットワーク 13 で NWEC に1泊研修で行ったときには、行政が市で車を出してくださったのです。私たちの時代は本当に良かったと思います。会を作るのはどうしたらいいかということで、燃えていました。今も燃えていて、ジェンダーの関心はあるけれども、行かれなくなってしまった。With You さいたまのイベントがあると、毎年のように行っていました。

時代が変わって、そういうゆとりある人がいなくなりました。もともと私たちは専業主婦でしたが、今は若い人がそれぞれのところで仕事を持っていて、With You さいたまや NWEC に行くと勉強するというゆとりがない。でもジェンダーの視点はしっかり持っている。ほっと越谷にもジェンダーに関心があって、議員になった人もいます。私自身は、若い人とは、NWEC や With You さいたまでの男女共同参画セミナーなどを通して、埼玉県内の学校の先生など、いろいろな人とつながることができました。

今はそのような講座があっても参加できないのですが、男女センターと行政が繋がって、市民団体の研修参加への支援のようなものがあるといいと思います。ほっと越谷が開設されるころは、行政も本当に熱心でした。NWEC に宿泊すると、ロビー会議とか言っている人々と出会えました。NWEC の宿泊施設の継続について、何かいい手立てはないかと思っています。

□司会 島津

それでは、最後に小野理事にまとめをお願いします。

□小野

まとめはしませんが、皆様、ありがとうございます。いつまでもお話したいと思っておりますが、皆さんが何度も発言しておられた、対面であること、この場の空気を一緒に吸って、一緒に考えることが、どんなに一人ひとりにとっての宝物なのかということ、今回はつくづく感じました。

今までの With You さいたまの歴史を紐解いてくださったことも私たちの財産になりますし、これから NVEC がどうなるかということ、また、県のジェンダー主流化で少しびっくりしましたが、私たちが一生懸命行政の上の方々にお願いしても叶わなかったことが、県知事からという信じられないことが今起きている、ということも知ることができました。

話題になっている「虎に翼」というドラマも、ジェンダー主流化にとっての追い風だと思います。そういう社会全体が追い風になっている状況だということを考えながら、私たちはこの場を大事にして未来に行けたらと、お話を聞きながら思いました。

また、男女共同参画こしがやとまろうはこの講座を最後に NPO としての活動を停止しますが、継いでいく団体もありますので、こういうお話を何かの機会にできたらと思います。皆様ありがとうございます。

□司会 島津

長時間にわたってありがとうございました。それでは、閉会の挨拶を坂本理事にお願いします。

□坂本雅子

本日は足元の悪い中、ご参加ありがとうございました。継承の話がありましたが、ミモザの樹という団体を私と島津で立ち上げました。とまろうカフェはこれで終了ですが、新しい団体で、なんでもやっと思いっています。人と人が集まって様々なことを話すという場、ゆったりカフェは続けようと思っています。皆様の活動がよくわかり、どこを向けてどうやっていけばいいかという指針をもらった気持ちです。

□司会 島津

これでとまろうカフェを終了させていただきます。ご参加ありがとうございました。

